

(1) 提案のコンセプト

① 資産の名称・概要

「埼玉古墳群～古代東アジア古墳文化の終着点～」

資産の概要

強力な王権による巨大な墳墓の造営は、国家形成期における世界的な現象であるが、古代東アジア社会においては、主として土盛により築造されるという共通点を有している。

東アジアにおける墳墓の起源は、中央アジアの遊牧民族とするか中国王朝とするかは意見の分かれるところであるが、古代東アジア社会の中心であった中国においては春秋時代後期に大規模な墳墓の造営が開始されており、そうした墓制は次第に鮮卑・高句麗・朝鮮半島諸国などの中国周辺地域に拡散していった。

このような中国を源流とする土盛の墳墓造営の潮流の一端が、朝鮮半島を經由して日本列島にもたらされ、3世紀から7世紀にかけて、列島各地で盛んに古墳が築造されるようになった。

日本列島の古墳は、東アジアの諸地域と比べ、前方後円墳という独特の形態と巨大化さらに規模による階層性を有するという特徴をもつ。それは、古墳が首長層の権威を表徴するとともに、畿内との政治的な関係を視覚的に表現する道具として採用された結果と考えられている。

関東平野の中央部に位置する埼玉古墳群は、日本有数規模の古墳群である。前方後円墳、円墳、方墳という多様な形態を示す大型墳が密集し、古墳時代の中期から終末期にかけて継続的に造営されており、我が国の古墳文化の実相を端的に示す文化遺産である。また規格上の特徴として全国的にも稀な長方形二重周堀で、周堀間の中堤帯や後円部に造出しを有するなどの固有の特徴を有している。古墳群の出土品には、稲荷山古墳から出土した115文字の金錯銘鉄剣をはじめとして、銅銚や馬冑・旗竿等、国内においても希少性の高い文物が多く含まれている。さらに、埼玉古墳群に供給された埴輪を生産した窯跡や石室に使用した石材の供給地も判明していることも貴重である。

埼玉古墳群のような大型の首長墓が密集して連綿と一地域で継起する古墳群は関東地方を北限とすることから、この古墳群を中国に端を発する古代東アジア世界の古墳に表徴される国際秩序システムの終着点に当たる文化遺産と位置づけることが可能である。

また、5世紀～6世紀の東アジア世界では、朝鮮半島と日本列島といった縁辺部にしか古墳が築造されなくなっており、当時の東アジア全体の古墳文化をうかがい知る資料としても貴重である。

その一方で、埼玉古墳群中の稲荷山古墳から出土した金錯銘鉄剣の文字資料は宋書倭国伝にみられる倭の五王の叙任記事との関連から、中国王朝—畿内王権—地方豪族という5世紀における中国王朝を頂点とする東アジア政治史を具体的に証明することができる唯一の資料である。

このように埼玉古墳群は、金錯銘鉄剣という東アジア古墳文化の絶対年代を確定する日本から発信できる唯一の資料を有する点において、他の古墳群とは異なる傑出した立場を有し、古代東アジアの国際秩序を表象する記念物の中においても稀有の存在であり、世界共通の文化遺産として優れた価値を有するものである。